

大会宣言

急速な高齢化や人口減少、核家族化、働き方の多様化等により家庭や地域社会等の結びつきが弱体化する中で、人と人とのつながりが希薄化し、孤立死や引きこもりの社会的孤立の問題、就労困難や失業等により経済的困窮状態にある生活困窮者の増加など、様々な生活課題が深刻化しています。

また、認知症等により判断能力の不十分な人への虐待や権利侵害、障がいを持つ子と親の高齢化、介護と育児に同時に直面する世帯など、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必要とする状況がみられます。

あらゆる生活課題に対応するためには、公的支援制度の更なる充実はもとより、生活の本拠である「地域」を基盤に、人と人との繋がりを育み、誰もが尊重され、その人らしい生活を実現できる社会を構築することが求められています。

こうした状況のなか、国においては子ども、高齢者、障がい者などすべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現に向けた各種取組みが進められています。

しかし、これらの取組みを確実に実践するためには、自分の暮らす地域をより良くしたいという主体性に基づき、「他人事」ではなく「我が事」として参画することが何よりも大切です。

そのために私たちは、住民主体による小地域福祉活動を一層強化するとともに、民生委員児童委員やボランティア・NPO団体、企業、福祉施設、社会福祉協議会など、地域社会の一員が連携・協働し、より身近な圏域における包括的な支援体制を構築しなければなりません。

本日、第67回魚津市社会福祉大会を迎え、私たちは地域の支え合い・助け合いの大切さを再認識し、だれもが住み慣れたこの魚津市で安心して暮らせる地域福祉のまちづくりの実現に向け努力することを誓い、ここに宣言します。

平成30年8月18日

第67回魚津市社会福祉大会